北陸体育学会　研究発表抄録（簡易版）フォーマット

|  |
| --- |
| タイトル |
| ○発表者名（所属）、共同発表者（所属） |
| ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○（500字程度で収まるように作成してください） |

作成例

|  |
| --- |
| 中学生の将来展望の構造と部活動との関連についての検討 |
| ○平 真由子（白山市立松任中学校）、浅川 淳司（金沢大学）、村山 孝之（金沢大学） |
| スポーツメンタルトレーニングでは，選手の動機づけを高めるために目標設定技法を指導する．しかし，従来の目標設定の技法指導では，選手個人がもつ将来展望という特性について考慮されてこなかった．将来展望の個人差を考慮した個別の介入プログラムが提供できれば，より効果的な目標設定技法の指導法を提案することができる．そこで本研究では，将来展望の意識と行動の関連，さらに，それらと部活動との関連を検討することを目的とした．  中学3年生を対象に質問紙調査を実施し，得られたデータから相関分析や一要因分散分析を行い，関連を検討した．その結果，将来展望意識と行動とには関連が見られ，認知や感情への介入だけではなく,行動を変容させるための介入も,将来展望を高めるためには効果があることが示唆された．なお，将来展望は習い事や部活動の種類との関連はなく，継続歴と相関が見られた．このことから，とりわけ競技歴の短いジュニアアスリートには，個々の将来展望についてもアセスメントをしたうえで,個別の介入プログラムを提供することが望ましいと考えられた． |